



ニュージーランド —その社会と教育—

2017年11月7日（火）に、ニュージーランド（NZ）の（社）クライストチャーチ教育協議会グローバル地域包括連携推進チーム日本代表の及川孝信氏がNZの社会や教育等の現状を紹介して下さいました。国際理解を進めるうえで大切と考え、その内容を4回のシリーズで紹介します。及川氏は盛岡市出身で現滝沢市の地域活性化にも汗を流されています。

I. 行政組織をダウンサイジングした社会

ニュージーランド

は、1970年代半ばまでは、ヨーロッパへの農作物等一次産品の輸出による裕福な国でした。しかし、同年代にECが結成されると輸出のためのヨーロッパ市場を失い、「暗黒の15年」



クライストチャーチ市役所の視察 2017

と呼ばれると経済危機がはじまりました。70年代に家計収入を支えるための女性の社会進出に対する環境整備という問題がすでに起こっています。

この頃から、労働党が中心となって、女性の権利、男女平等、結婚のあり方、子供のあり方等々に関する議論をし尽くして段階的に法整備をしました。ところが経済は全く復活せず、80年代後半に経済・財政破綻危機に至りました。ここでも労働党政権が行政組織のダウンサイジング（縮小化）

を断行しました。中間組織を徹底的に排除して出来るだけ現場に物事を決めさせて行くという政府運営に転換しました。現在のNZには都道府県等の中間組織は存在せず、国と地方基礎自治体が対等な関係で行政を行っています。地方分権が確立しているので地方に財源があり（主に固定資産税）、これに対して国は一切口を出せません。国と地方が、縦（上下）関係ではなく横（対等）関係へ転換したのがNZ行政改革と言えるでしょう。象徴的には、国家事業8割削減、国家公務員6割削減とされています。



ビーハイブ（蜂の巣）と呼ばれるNZ国会議事堂

この社会変革は、官と民で断行され、実質的に「民」主体の地域社会を発展させ、「官」の役割は最小化されました。国から地方へ、官から民へ、これらのダウンサイジングを四半世紀かけて完成させたのがニュージーランドの社会変革です。

シリーズII～IVは、NZの地域社会“スクールコミュニティ”、“現場中心のキャリア教育”、及び“スポーツコミュニティ”について紹介します。

イベント報告 (Event Information)



国際交流フェスティバルを終えて

去る年 2017 年 11 月 5 日、日曜日に滝沢市国際交流協会発足後初となる、国際交流フェスティバルを開催いたしました。

私は、このフェスティバルを長きに渡り心待ちにしていました。ただ、フェスティバルでやりたいことがいろいろありましたが、思いの他手が回らず考えていたことの三分の一も出来ずじまいでした。少し残念でしたが、多くの実行委員会の方々のすばらしいご意見、考え等で、フェアの会場が催物の種類によって数箇所に分かれたにもかかわらずとても良いものが出来上がりました。



今回のフェスティバルは経験者もおりましたが、はじめての方が多く様々な面で、手探りのなか関係団体、市役所、個人等にそれぞれの人脈を頼りに提出書類やボランティアの方々を見つけて頂いたり、広報活動をして頂いたりと活躍して頂きました。結果、外国人を含むボランティアスタッフ 80 名のご協力を頂きました。

フェスティバルでは、インドネシア、ロシアによるリレートークで、それぞれの国の様子をスライド、写真等を使い面白く楽しく紹介して頂きました。外国人と話そうではリレートークでは聞くことの出来なかったことを、ざっくばらんに話す

ことが出来とても有意義な場となりました。

外国の紹介ブースでは、アメリカ合衆国、インドネシア、エクアドル、コロンビア、韓国、メキシコ、台湾、中国、イタリア、フィリピンの個性あふれる展示紹介となりました。

パラグアイ料理教室では、日本料理とは違う味付けで美味しく楽しく作ることが出来たようです。

外国の衣装試着コーナーでは、たくさんの方々に試着して頂くことができ、気分は外国人になりきったといった様子で楽しんで頂けたと思います。

世界の遊びでは、多くの方々にフィリピン、中国、インドの遊びを楽しんでいただけました。

滝沢市民を中心に近隣の市町村を含めて 200 名を越える多数の方々が来場して下さり、市民と外国人とのとても良い交流の場を作れました。



本フェスティバルの開催に当たり、(公財) 岩手県国際交流協会からか多大な支援を賜りました。開会式では柳村市長に挨拶を賜り、熊谷教育長、日向生涯学習スポーツ課長に臨席を頂きました。また、フェスティバル会場の確保にあたり岩手県ユニセフ協会より心温まる配意を賜りました。これらの方々には心より厚く御礼を申し上げます。

国際交流フェスティバル in TAKIZAWA
実行委員長 笹渡 匡

海外で活躍する



滝沢市にお住まいの、高橋 聡さんは現在、JICAのシニア海外ボランティアとしてエクアドルの首都、キト市で現地に溶け込んで活動をされています。キト市に赴任後ほぼ1年の活動や生活の様子を紹介して頂きました。

赤道直下に位置しているエクアドルは、シェーラと呼ばれるアンデス山脈地域、オリエンテのアマゾン川上流地域、西海岸地域のコスタ、そして、世界遺産のガラパゴス諸島に分かれております。小生の住むキト市はシェーラ地帯です。2850mの標高で、年間を通じて朝は、9度前後、日中は18度ぐらいで平均気温は14度です。岩手の秋の気候に似ています。エクアドルのどの地域に行っても、空気が乾燥して、湿度が少ない分住みやすいかなと思います。ただ、四季の変化がない分、物足りない部分もあるかもしれません。



職場の同僚と共に、中央が高橋さん

私は、JICAのシニア海外ボランティアとしてキト市にある農牧省、農産物品質保証庁の農産物汚染対策課に配属されています。特に、日本への農産物輸出する際に、認可する部署ですが、私の所は、植物防疫検査で農薬残留分析をして最大残留基準値を超えた違反事例に汚染対策課、農牧省そして、日本の関係機関との調整をスタッフと共に対応する仕事です。エクアドルのカカオ豆はフレーバービーンズと呼ばれて、世界のチョコレート業界から注目されています。日本もエクアドルも安全性を考えることは同じですが、検査方法

と生産者への指導方法の差がまだあるようです。

生活習慣ですが、高地にある為、坂を上る時は息切れがします。食べ物は、バナナが安く(10本ぐらいで110円)おいしいです。ただ一つだけなじめないことがあります。それは、主に朝の挨拶です。男同志は握手で済みますが、男女になると「Hola, buenos días!」と頬を寄せて、軽くはハグをします。慣れない習慣なので、ガラパゴスのゾウガメのように首を伸ばしたら、何度か首がつりそうになりました。朝の挨拶は危険が伴います。職場の女性同僚に、日本人にはこのような習慣はないという「ふーん、変なの!」と言われて握手だけになりました。

自分の両親と同じ年齢の異邦人が、周りにいて仕事をしていて、スペイン語もできないのに大変だなーと思っている為か、皆、とても親切です。弁当のおかずもよくもらっています。やはり、朝の挨拶は、危険を覚悟して、頬をつけてハグをしないといけないのかなと思っています。

64歳の誕生日を祝っていただきました。お父さんより上だと言われたのがショックです。



お知らせ

スペイン語会話、英会話講座の報告

昨年、実施したスペイン語会話講座ではアットホーム的な雰囲気の中で楽しく過ごせた。講座の内容、進め方も良かった。また、次回の講座開設を希望する声がアンケートで多く寄せられました。

日常英会話講座でも次回の講座に参加したいとの要望が寄せられました。なお、当協会の落度で会話力が異なる受講者が同時に受講することとなり、途中で中止する方が多くなってしまいました。お詫びして、次回の取り組み課題と致します。

幼児国際理解交流会への講師派遣

平成30年1月30日(火)、牧の林すずの音保育園で幼児国際理解交流会が開催されます。その内容は、講師の母国語による「絵本の読み聞かせ」と「あそび」で、当協会から3名を派遣します。

3歳児クラス：クレヨンのくろくん、ゲーム

4歳児クラス：オオカミと七匹の子やぎ、折り紙

5歳児クラス：3びきのこぶた、伝承遊び

国際理解講座への講師派遣

滝沢市生涯学習スポーツ課主催の「国際理解講座」に3名の講師を派遣します。講座は以下の内容で、滝沢ふるさと交流館で開催されます。開催時間はいずれも、午後7時30分から8時30分です。

1月31日(水)：ドイツとはどんな国

2月7日(水)：南米の対照的な二つの国

2月14日(水)：わたしの国イタリア

日本文化体験講座

日本文化体験講座を開設します。多数の参加をお願いします。

日時／平成30年3月4日(日)

午前10時～12時 箏体験講座

午後2時～4時 茶道体験講座

問い合わせ先：

滝沢市国際交流協会 〒020-0692 岩手県滝沢市中鶯飼55番地
滝沢市教育委員会生涯学習スポーツ課内

TEL：019-643-6591 FAX 019-687-6312 Mail: yokakko@poplar.ocn.ne.jp

場所／ふるさと交流館 会議室、学習室
定員／各20名(定員になり次第締め切ります)
受講料／箏体験講座(200円) 茶道体験講座(400円) 箏・茶道講座(600円)
申し込み・問い合わせは下記の問い合わせ先まで、

活動経過と予定の概要

主要な活動

2017年10月27日(日) 第3回理事会

国際交流フェスティバ in TAKIZAWAについて、
海外派遣事業への取り組みについて

11月5日(日) 国際交流フェスティバル開催

11月25日(日) 第4回理事会

「国際理解講座」への講師派遣について、
情報誌2号の編集について

12月7日(水) 臨時理事会 「ニュージーランド教育フェア2018 in 岩手」への取り組み

12月20日(日) 第5回理事会 国際理解講座、
日本文化体験講座、予算の執行状況について

主要な予定

2018年1月21日(日) 第6回理事会

1月30日(火) 幼児国際理解交流会

1月31日、2月7日と14日(水) 国際理解講座

2月18日(日) 第7回理事会

3月18日(日) 第8回理事会

4月8日(日) 2018年度定期総会

お詫び

情報誌第1号の2ページ、イラストの作者を笹渡 広起 リカルド君とお知らせしましたが、笹渡 健児 アンドレス君でした。お詫びして、訂正いたします。

賛助会員 (50音順)

協栄テックス株式会社、公立大学法人岩手県立大学、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立岩手山青少年交流の家、南館歯科・小児歯科医院、有限会社機興社